

平成 28 年度第 6 回南区まちづくり懇話会 議事録

1. 日時 平成 29 年 3 月 17 日（金） 午後 4 時から
2. 場所 熊本市南区役所 3 階大会議室
3. (1) 出席委員
清本委員、兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、福原委員、吉村委員、井村委員、赤松委員、岡委員（副会長）、宮本委員、田中委員（会長）、金井委員、島田委員
- (2) 出席職員
区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、まちづくり推進課長、保健子ども課長、南農業振興課長、飽田総合出張所長、天明総合出張所長、幸田総合出張所長、南部出張所長、城南総合出張所長、飽田まちづくり交流室長、天明まちづくり交流室長、幸田まちづくり交流室長、南部まちづくり交流室長、城南まちづくり交流室長
4. 配布資料
 - (1) 一会議次第
 - (2) 一委員名簿
5. 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 意見交換
〈テーマ〉 第二期 まちづくり懇話会ふりかえり
 - (3) その他
 - (4) 閉会

6. 議事録

会 長 区政が始まって5年。今年度末をもって第二期の南区まちづくり懇話会委員の皆さんの任期が終了する。

本日は、皆さんにこれまでの2年間の振返りをお願いしたい。具体的には、机に置いてある用紙に4項目の記入をし、発表してほしい。1つ目は「2年間の振り返って」。今年は熊本地震もあり、大変な1年だった。震災も含めて考えていただきたい。

2つ目は「心残りなこと」。もっとやれたのではないかとということがあればお願いしたい。

3つ目は「次年度に伝えたいこと」。

4つ目は「最後に言っておきたいこと」。

私が懇話会委員を引き受けたのは、区政が始まる前年度末に前区長の永目さんから「南区のまちづくりのために懇話会委員になってほしい」というお話があってから。最初はお断りしたが、私はもともと京都市左京区出身ということもあり、区政に興味があった。熊本市は、政令市移行前は小学校区ごとのまちづくりを推進していたので、どのように区ごとのまちづくりを進めていくのか関心があって、お引き受けした。

まず「懇話会って何なの?」というところから始まった。「懇話会」は「審議会」ではないので、審議する場ではない。区役所と区民が一緒になってまちづくりを進めていく上で必要な場だと思っている。初年度は「南区まちづくりビジョン」を策定するために区役所のいろいろな部署の職員さんも一緒になって各地域のワークショップに参加して、区民の皆さんの意見を拾い上げていった。2年目から南区まちづくり懇話会がスタートして、会長という立場になった。南区まちづくり懇話会は、左側に座っていただいているのが「飽田」、「天明」、「幸田」、「南部」、「富合」、「城南」の6地域の代表として来ていただいているみなさん、右側に座っていただいているのが「農漁業」、「歴史・文化」など南区内において各テーマで活躍されているみなさん、そして、公募委員として選定されたお二人で組織している。

まちづくり懇話会では、区のまちづくりの方向性や区役所が組み立てたまちづくり推進経費の使い方について、意見交換を行った。私が注目していたのは、まちづくり交流室。まちづくり交流室と公民館の仕事のすみ分けはどうなるのか。地域からの情報開示や

様々な相談事をどのようにして受けるのかということをお心配していただいたので、各まちづくり交流室長にも懇話会に出席していただいた。これから、まちづくり懇話会がどうしていくのかという問題があるが、来年度からはまちづくりセンターもできるので、まちづくりセンターも含めて協働で運営して行ってほしい。熊本市にとって、地域担当職員制度は初めての試みなので、地域の方もあたたかい目で受け入れてもらえればと思う。

まちづくりセンターと公民館、地域コミセンのすみ分けについても、懇話会の中で意見交換ができればと思う。

それでは、まず私から本日のテーマについてお話しする。

「2年間を振り返って」、私は4年間になるが、たくさんの南区の方と知り合えてよかった。

「心残りなこと」、今年は熊本地震があり、まち歩きができなかった。もっと南区のいろんな場所に行きたかった。

「次年度に伝えたいこと」、私は田畑区長の「南風を吹かせる」という言葉が好きなので、南区から新しい、あたたかな南風を吹かせてほしい。

「最後に言っておきたいこと」、私は「協働」という言葉を前から言っているが、熊本には「お互い様でできるしこ」という言葉がある。京都には「できるしこ」を代用できる言葉は見当たらない。「無理せず、楽しく」という意味合いになるが、「できるしこ」は私の好きな言葉。しんどい時も楽しく笑顔でやっていきたいと思っている。

福原委員 「2年間を振り返って」自分自身のことだがボランティアができなかった。

「心残りなこと」私は農業に従事しているが、もっと多産業の方と深く交流すればよかった。

「次年度に伝えたいこと」南区の統一。

吉村委員 「2年間を振り返って」各地域でいろんな方が活躍されているのだなと再認識した。

「心残りなこと」富合町と城南町の文化財の保護がこれからどうなるのかまだ見えていない。

「次年度に伝えたいこと」熊本市の文化財のリストアップをしてほしい。旧市内は、例えば南部地区は昭和40年代に出ているが、そ

の後合併した飽田、天明、富合、城南はない。何もかも一回調査したものがほしい。

井村委員 「2年間を振り返って」みなさんと知り合いになって、いろんな情報をいただいた。
「心残りなこと」もっと自然を探求したかった。そのためには現在考え中だが、足かせがないといけないのかなと思っている。今年は富合、来年は城南というように、一気に南区全域を歩くのは無理なので、何らかの方向性がみつけれないかなと思っている。
「次年度に伝えたいこと」文章はできあがっているので、これから先は現場を見て歩くのが一番。現場を見ずにまちづくりはできない。頭でっかちにならないまちづくりにしてほしい。
「最後に言っておきたいこと」何年続くかわからないか、项目的に煮詰めてみてはどうか。

赤松委員 「2年間を振り返って」まちづくり懇話会委員って何をするのだろうというところから始まってあっという間の2年間だった。南区でまだまだ知らないことがたくさんあったし、知りたくなったので、周りの友人や地域の人に伝えていきたい。
「心残りなこと」もっと山歩きやまち歩きをしてみたいという思いはあったが、思いばかりで行動ができなかった。次年度はもう少し行動的になりたい。
「次年度に伝えたいこと」まちづくり懇話会委員として参加したからには、周りの人達にどんどん南区のまちづくりを広めてほしい。小さなことでもどんどんPRして地域からの意見を吸い上げてほしい。委員を卒業しても区役所の担当の方には地域の意見を伝えていきたい。
「最後に言っておきたいこと」おもしろそうと思ったらやってみて、参加してみることが大事。このようにみなさんと知り合いになれて楽しかった。

宮本委員 「2年間を振り返って」私も2期にわたり4年務めたが、委員一人一人の意見や考え方が自分とは異なる面が多く、参考になり、勉強になった。
「心残りなこと」1期目の懇話会では南区内の視察があり、特に六殿神社は全然知らなかったのも、とても感動した。もっと、南区の

名所等を他の委員さんと一緒にまわって、知って勉強したかった。「次年度に伝えたいこと」まず南区を知ることが一番だと思う。「最後に言っておきたいこと」新設の地域担当職員には積極的に動いてもらい、実情を把握して、懇話会には全員出席して委員と一緒に協議してもらいたい。

金井委員 「2年間を振り返って」いろいろな方と知り合えた。特に、南区役所の職員さんと知り合いになれたのがありがたかった。「心残りなこと」みなさんと一緒に南区全体をこの目で見たかった。「次年度に伝えたいこと」懇話会に現場の若い人達を入れて意見を引き出してほしい。緩やかな連携を図れると一番いいのかなと思う。「最後に言っておきたいこと」地域担当職員には南区の面白い人を捜してほしい。

会 長 私も、まちづくり懇話会にはもっと若い人に参加してほしいと思っている。高校生が参加できるようになるのが理想。時期の懇話会の方には頑張っていたきたい。

島田委員 「2年間を振り返って」2年間は早かった。特に2年目は地震があったために自分の気持ちが落ち着かなかった。みなさんの活動内容等が聞けてよかった。「心残りなこと」今日の懇親会に参加できないこと「次年度に伝えたいこと」とくかく楽しんでほしい。そして、南区を愛して育ててほしい。「最後に言っておきたいこと」みなさんとの出会いに感謝している。今年は熊本城マラソンに参加したが、いろんなポイントで委員のみなさんに応援していただいた。この懇話会のつながりにとても感謝している。これからも南区のために頑張りたい。表と裏があるように、自分のできることをできる場所でポチポチ頑張りたい。

会 長 次年度のまちづくり懇話会委員のみなさんには、ぜひ今日のみなさんの発表の内容を送ってほしい。これがあるのとないのでは、緊張感が全く違う。

上田委員 「2年間を振り返って」自治協議会の代表という立場で参加したにも関わらず、自治協議会からの発言になっていたのかなという気が

する。委員のみなさんが優しくてよかった。

「心残りなこと」参加しているみなさんの地区を見たり、知ったりしたかった。懇話会を木原でしたり、川尻でしたりするとよかったのではないかな。新年度からいろんな場所でしてみたらどうか。また、富合・川尻・城南でフットパスコースをつくる時はそれぞれ参加したが、もっとコースも増やしたかった。

「次年度に伝えたいこと」2年間はあっという間なので、みんなできり組めるイベントも作ってみたらどうか。一からつくるのが大変だったら、例えば、南区フェスタでブースを担当するとか。

「最後に言っておきたいこと」南区役所にはこれからもちょうくよくお願いやお尋ねにきたりするので、今後ともよろしくお願ひしたい。宮地の獅子舞も動き始めたばかりなので、応援してくれそうな基金とか補助金の情報はどんどん流してほしい。

金子委員

「2年間を振り返って」最初は大変難しいことを引き受けたと思っていたが、みなさんいい方ばかりで楽しく参加した。会を重ねるごとに自然に話ができるようになり、参加させていただき、大変勉強になった。

「心残りなこと」富合のことは少しわかっているが、南区全体がまだまだわからない。他の地域のまち歩きをしたかった。

「次年度に伝えたいこと」地域の方に懇話会で出た話を伝えてほしい。

「最後に言っておきたいこと」地域の方にもっと南区のことをしていただきたい。

会 長

懇話会で出た話が懇話会で止まったら意味がない。地域の方や周りの方に伝えてこそ意味がある。

辻田委員

「2年間を振り返って」6地域とテーマ型の市民の方とお会いでき、区役所職員さんと南区のことで会話できたことは大変勉強になった。

「心残りなこと」知らない南区がまだいっぱいある。もっと勉強しなくてはと思う。

「次年度に伝えたいこと」すばらしい南区になるように頑張ってもらいたい。

「最後に言っておきたいこと」早くコミセンがほしい。

- 会 長 何をするためにコミセンがほしいのか。
- 辻田委員 健康まちづくりのため「いきいきサロン」を定期的を開催したいが、場所がない。
- 会 長 私はコミセンをつくることよりも、辻田委員が何をしたいかが大事だと思う。コミセンでなくてもいろんな場所があるのではないかと。確かにコミセンがあったらいいと思うが、どこでするかよりも何をするのが大事。
- 辻田委員 私の地域には地域公民館があるが、館長のなり手がいないので、廃止の話が出ている。コミセンであれば市の指定管理なので継続できる。
- 兼田委員 私は、昨日公民館長を辞退してきたばかり。
鍵を公民館長に借りにいかななくても、常駐している事務員がいて、常に開いている場所であるコミセンは地域に必要なと思う。辻田委員の話の流れで順不同に話していく。
「心残りなこと」・「最後に言っておきたいこと」来年度からまちづくりセンターができるが、まだ知らない人が多いので、地域住民への周知とその後の連携が大事。そのときに地域の自立を大事にしてほしい。過保護に行政がかまうのではなく、地域にまかせてほしい。コミセンは市からの運営費でまかなっているが、報告書類が多いと聞く。運営費は自由に使わせてほしい。
「2年間を振り返って」他の地域や団体のことを知ることができた。田迎校区は2自治会しかないが、1つは2000世帯、もう1つは200世帯。運動会もするのも難しい。何とか変えたいと思い、努力したが、志半ばで公民館長を辞退してしまって申し訳ないと思っている。「次年度に伝えたいこと」熊本地震は確かに酷かったが、夢やビジョンをもって次のステップへ進むことも大事。
- 田中会長 兼田委員はいつもいろんな話題を提供していただいて、とても助かった。感謝している。第4～6回まではこれまでのふりかえりを中心として協議していただいたが、この構成も兼田委員の意見によるところが大きい。

清本委員 「2年間を振り返って」みなさんとの出会いが非常によかった。門前町訪問が印象に残った。門前町は熊本地震で甚大な被害を受けたので、とても心配している。「心残りなこと」話が盛り上がると、会議の時間が足りなかった。「次年度に伝えたいこと」懇話会にこだわらなくてもいいので、若い人材を登用して、継続的に実績があがるような事業をつくりあげていただければと思う。「最後に言っておきたいこと」もっと、懇親会を開催してほしい。ノミニケーションでもっといろいろな意見が出ると思う。

会 長 初年度にワークショップを開催したときに、中高生ワークショップのファシリテーターとして参加してくれた高校生がいたが、現在彼は南阿蘇鉄道に就職して、南阿蘇のまちづくりの一翼を担っている。懇話会にこだわらなくても、いろんな場面で若い人が南区のまちづくりに参加できるようにしてほしい。

副 会 長 「2年間を振り返って」平成27年にみなさんと訪問した門前町にある阿蘇神社が熊本地震で甚大な被害を受けた。いろんな場所が平成27年と28年で全く変わってしまい、日常の大切さを感じさせてくれた2年間だった。「心残りなこと」安心・安全担当として、ハザードマップ作りのきっかけとなる講座を設けることはできたため、南区は他の区に比べてハザードマップ作りがかなり進んでいる。しかし、安心・安全について語り合う場をつくれなかった。そういう提案をするべきだった。「次年度に伝えたいこと」懇話会とまちづくりセンター職員との会合の場をもったらどうか。懇話会の場で話してもいいし、6地域回ることでも全センターの職員と話してもいい。また、各地域をまわるときは、校区自治協議会の会長に出席してもらってもいい。地域のいろんな意見を吸い上げることができるので、検討してほしい。「最後に言っておきたいこと」ぜひ、懇話会委員のOB会をして、人材のデータベースにつなげてほしい。

会 長 来年度はぜひ、各地域でまちづくり懇話会を開催してほしい。それでは、区役所代表として、総務企画課長からも発表してほしい。

総務企画課長

「2年間を振り返って」委員のみなさまには、活発なご意見をいただいで感謝している。

「心残りなこと」南区では事業推進の4本の柱をもとにまちづくり推進事業をすすめているが、その一つである人材育成の充実については、事業の組立てがなかなか難しく、取組みが少なかった。これからの課題としたい。

「次年度に伝えたいこと」これまで、田中会長と岡副会長が中心になって、委員のみなさまが話しやすい雰囲気をつくっていただいた。ぜひ、この雰囲気を来年度も引き継いでいけたらと思っている。

「最後に言っておきたいこと」南区のまちづくりはこれからも続いていくし、来年度からまちづくりセンターができて、より地域に寄り添ったまちづくりを進めていく。今後とも委員のみなさまにはご協力をお願いしたい。

会 長

こういった形で引継ぎができるなんて、去年の4月には考えられなかった。まちづくり懇話会の開催なんて考えられないような状況の中で、区長に開催をお願いして、委員のみなさんから地震の状況を話していただいた。

熊本地震を乗り越えて、南区のまちづくりはこれからもっともっと頑張らないといけない。ぜひこれからも委員のみなさまにはご協力をお願いしたい。

最後に、区民部長からも一言お願いしたい。

区民部長

本来であれば区長からお礼を申し上げるべきところだが、本日は議会対応のため出席できないので、代わって私からお礼を申し上げます。

みなさまには委員として、また今年度はいきなりの熊本地震で地域の復興のためいろんな形でご尽力いただき感謝申し上げます。

まちづくりって何なのと考えたときに、いろんな捉え方があるが、以前いろんなまちづくりイベントを企画している方から「私は、イベントを成功させるためではなく、イベントを作り上げていくプロセスの中でいろんな人とのつながりやネットワーク作りのために頑張っている。」というお話を聞いた。それから10数年経つが、私もまちづくりはネットワークをいかに構築できるかだと思っている

る。ネットワークができると次に何かをやるときにまた協力してもらえ
る。そして、そこでいろんな知恵が集まり、短い期間で効率的な事業
ができる。そういった思いでまちづくりに取り組んできた。田中会長
には南区のワークショップなどいろんなアイデアを出していただき、感
謝している。また、委員のみなさまには懇話会にご協力いただき、感
謝している。
これからも、南区のまちづくりにご支援・ご協力をお願いしたい。

会 長 南区のまちづくりに終わりはない。委員のみなさまにはこれから
ももっともっとご協力をお願いしたい。